一般財団法人宗像協会（宗像財団）

2022年度報告書

2023年9月

MUNAKATA

インド・コルカタ校外で支援する青少年グループ
2023年3月撮影

宗像財団について

設立寄付：宗像康子、ジョー新宅
設立代表理事：田中真奈
設立年月日：2019年2月6日

宗像財団は2019年2月に設立された非営利型の一般財団法人です。

「今いる社会に居場所のない、世界のマイノリティのために」をテーマとして、国内外において貧困問題、教育格差の問題、マイノリティの課題、多様性の推進に取り組んでいます。

これまで宗像助成金を通じて、南アジア3ヵ国（インド・パキスタン・バングラディッシュ）と南部アフリカ3カ国（マラウイ・マダガスカル・モザンビーク）で12の事業を支援してきました。またマイノリティの立場からSNS発信をする若者への小規模な助成金（Munakata Seed Grant）もスタートさせています。

宗像助成金は一つの事業に対して9000米ドル（約125万円）と小規模ですが、代表自身が直接訪れた団体と個人の中から、相互の信頼と対話をベースに選ばれていることが特徴です。

2022年度総括

宗像財団は今年で5期目を終えました。設立直後から約3年間のコロナ禍がようやく収束して、パートナー団体の活動も活発になっています。2022年は支援先のパキスタンの記録的な洪水被害、マラウイの難民シェルターの閉鎖、と想定外の状況に多くのご支援を賜り、迅速に支援することが出来ました。本当にありがとうございます。

また設立後に初めて北九州の宗像市を表敬し、市役所や観光協会で財団の海外支援について共有することが出来ました。世界遺産の宗像大社もあり、MUNAKATAのブランドで海外発信している宗像市との将来のコラボが実現すればと願います。

啓発活動

宗像財団では助成金事業だけではなく、マイノリティの課題を発信することで国内外の人たちの意識を変えていく啓発活動にも重点を置いています。

2023年の2月にはインドのボドランドで開催された国際フェスティバルにおいて、代表理事の田中が「子どもの人権擁護ーLGBTの視点からー」というテーマでのプレゼンを行いました。

またマラウイでTikTokとYouTubeを通じてトランスジェンダーに対する誤解と偏見について発信している個人へ、宗像小規模助成金（Munakata Seed Grant）を通じた支援を行いました。SNSの持つ影響力が、より良い世界に繋がるように、今後も小規模な支援を継続する予定です。

ボドランド大学主催国際フェスティバル参加　2023年2月撮影

2019～2022年度
宗像助成金実績

プロジェクト内容	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
人身取引被害者のための シェルター運営と少年保護 （インド・アッサム州）	2,006,500円	2,008,000円	2,466,000円	2,008,000円	0円 （助成金卒業）
農村地域での看護助手 養成事業 （インド・コルカタ）	1,006,500円	1,008,000円	1,341,000円	0円 （2022年度 継続支援）	1,008,000円
安全な飲料水提供と 女性のエンパワメント （モザンビーク・モアンバ郡）	2,000,000円	2,000,000円	2,000,000円	0円 （助成金卒業）	0円 （助成金卒業）
LGBT難民支援とコミュニ ティでの啓発活動 （マラウイ・リロングウェ）	2,008,100円	977,590円	1,342,439円	1,847,846円	4,004,579円 （緊急シェル ター支援）
若者の研修所ユース・ インパクト・ラボの運営 （マダガスカル・アンタナナリボ）	1,001,700円	984,380円	1,085,260円	0円 （助成金卒業）	0円 （助成金卒業）
ロヒンギャ難民のホスト コミュニティ支援 （バングラディッシュ・ コックスバザール）		1,000,000円	0円 （コロナによる 活動延期）	0円 （活動再開）	0円 （助成金卒業）
トランス女性への暴力防止 プロジェクト （パキスタン・ラホール）		1,003,565円	712,705円	1,032,500円	814,168円 （半期分+ インフレ対応 1500ドル）
開放病棟による薬物リハビ リセンターの運営 （パキスタン・ラホール）		1,007,200円	1,003,330円	564,399円 (半期分は 2022年度へ）	615,341円 （半期分）
トランス女性と若者への 就労機会の提供 （パキスタン・ラホール）		1,007,200円	1,281,450円	1,143,650円	556,215円 (洪水緊急 支援のみ）

2022年度
ご寄付

2022年度はパキスタンでの大規模洪水に対する緊急募金を中心として、マラウイのLGBT難民のシェルター支援や他のプロジェクト支援のため、総額86万円を超えるご寄付を賜りました。

支援団体訪問
マラウイ

プロジェクト:LGBT難民支援とコミュニティでの啓発活動(2事業)

活動地:マラウイ・リロングウェ及びザレカ難民キャンプ
活動実施団体:CHRR
支援開始:2019年～
訪問:2022年11月20日～27日
参考QRコード:CHRRが宗像財団の支援でとりまとめたLGBT難民の証言集 "No Where Is Safe"

「難民支援」というと、宗教対立や民族紛争などから逃れてきた母子の保護が浮かびますが、アフリカ諸国では性的指向・性自認が大多数と異なるために、暴漢に襲われ、家を焼き討ちにあって家族に絶縁され、他国に避難するLGBT難民がいます。

「LGBT難民」という言葉を初めて知ったのは、2019年のケニヤ・カクマ難民キャンプに関するFacebook投稿でした。UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)がLGBTを保護が必要な避難民であると認めて、第三国への定住を支援していることを知りました。

宗像財団の支援対象国としてマラウイが決まり、現地を訪問したときに、私は普段報じられることのないLGBT難民を支援している団体を訪れました。そこで出会った難民の一人が、ケニヤ・カクマ難民キャンプで私の知る日本人女性の支援を得たゲイの男性と知り、遠くケニヤからマラウイまで逃れて苦しんでいる彼とその仲間の力になれたら、と助成金事業をスタートさせました。2019年の6月のことです。

その後、宗像助成金の支援を受けた難民のうちの6名がカナダや北欧諸国に移住して、自由で安全な生活を手に入れています。その一方で、それまで安全なシェルターで暮らしてきたLGBT難民が、2022年10月末にUNHCRからの突然の通告でキャンプ地へ強制送還されることになりました。キャンプに暮らす他の国々の難民は行き場のない怒りや憎しみの対象をLGBTに向けるため、キャンプ内では何度もリンチやレイプが発生しています。財団が食費を支援してきたLGBT難民からの直接の連絡を受けて、11月に現地に向かいました。

現地での話し合いで分かったことは、ウクライナ戦争とウクライナ難民の増加を受けて、UNHCRがマラウイのザレカ難民キャンプへの予算を半減させたため、安全なシェルター運営を担ってきたPlan Internationalも資金が枯渇し、シェルターを閉鎖せざるを得ないという状況でした。またこれまでPlanが提供してきたシェルターの運営費は管理費が高く、日本のPlanを通じて寄付をする、という額ではないことも判明しました。キャンプに戻るとすぐにリンチの対象になるゲイとトランジェンダーを保護するため、一時的なシェルター運営をパートナー団体であるCHRRにお願いして、現在に至っています。

現地訪問時にはザレカ難民キャンプでも支援しているLGBT難民やUNHCR担当官らと対話をする予定でしたが、前日の夜に難民キャンプで食料配布を巡って暴動が発生し、UNHCRオフィスが閉鎖された状況で、わずかな時間の対話しか実現しませんでした。その短い対話の中で、コンゴ民主共和国から逃れて4年キャンプに暮らす20歳前後のトランス女性が、ひげを生やしてムスリム男性の恰好をして、必死に生き残りを探っている姿が印象に残りました。そのような服装と男性的なふるまいをするように、とPlanから言われたのだそうです。

マラウイ国内のLGBT当事者とも会って、様々なディスカッションをしました。LGBTとひとくくりですが、現状は性自認が異なるトランスジェンダー女性への偏見と暴力が激しいことが分かりました。首都リロングウェでは少し理解があるものの、地方の学校やコミュニティーでは酷い「いじめ」にあうとのことで、自殺未遂をしたところを仲間が助けて、リロングウェで休養しているトランス女性もグループにいました。自分の性自認を認めてくれる仲間と一緒にいるからか、とても明るい表情で、せめて一年のうち一週間でも、安心できる場所で笑って過ごせるようなリトリートの機会があればよいのに、と感じました。

マラウイは "The Warm Heart of Africa" (アフリカの温かな心)と呼ばれるほど温厚な人々が多く、法律で同性愛行為が犯罪とされてはいるものの、一方で養子を迎えて子育てをするLBGT当事者を、家族が全面的に支えることもあります。他のアフリカ諸国から逃げてきた若いレズビアン女性の中には、マラウイの若いカップルの家に同居させてもらい、養ってもらっている女性もいました。CHRR代表のマイクも、ザレカ難民キャンプで暴行を受けたLGBTから連絡が入ると、土日でも深夜でも駆けつけてくれるのだ、と難民の人たちが一様に証言していました。暴行を受けたLGBT難民の治療費や、シェルターの難民への食糧の差し入れなど、マイクが自腹で払っているものが多くあることも、良く知っています。

紛争による避難民であれば、停戦すると本国に戻りますが、酷い暴力で本国から逃げてきたLGBT難民には、戻る場所がありません。UNHCRの力を借りて、第三国に定住するか、マラウイで市民権を得て生きていく選択肢しかありません。居場所のないこうした難民のために、安全なシェルターを一定期間提供する事業を宗像助成金を通じて、継続していく予定です。

ザレカ難民キャンプで支援する難民や現地スタッフと　2022年11月撮影

支援団体訪問
インド

プロジェクト：農村地域での看護助手養成事業

活動地：インド・コルカタ校外
活動実施団体：NISHTHA
支援開始：2019年～
訪問：2023年3月15日～18日

貧しい農村地帯での女性のエンパワメントに40年以上取り組んでいるNISHTHAを初めて訪問したのは2018年でした。高校を中退した女生徒が看護助手になる機会を提供したい、という代表のミナの意向で助成金支援を始めたのは2019年。その後、想像もしなかった世界的なパンデミック（コロナ）流行の中で、育成された看護助手は医療現場の最前線で働くこととなりました。コルカタで勤めていた医者や看護師が自分の出身地へ戻り、医療従事者が不足する中で、非常にレベルの高い看護助手として地元の西ベンガル州政府からも表彰されたそうです。

2020年2月以来、3年ぶりとなるNISHTHA訪問では、コルカタから1600キロも離れたラジャスタン州で働いている卒業生も駆け付けて、心からの感謝を伝えられました。看護助手として毎月15,000ルピーから40,000ルピーという高額の給与をもらう立場となり、仕送りをして家族を支えることで、村での女性の立場も非常に向上したそうです。彼女たちの研修を僅かな報酬で請け負ってくれた病院の医師にも感謝を伝え、村々を訪問して、看護助手の母親たちとも対話をしました。200名を超える女性の経済的な自立を実現した模範的な事業ということで、財団としては、このプロジェクトの自立的発展を支援します。

看護助手の奨学金を受けた生徒の母親たちと　2023年3月撮影

支援団体訪問
インド

プロジェクト:人身取引被害者のためのシェルター運営と少年保護 (2事業)

活動地:インド・アッサム州ボドランド
活動実施団体: Nedan Foundation
支援開始:2019年～2023年
訪問:2023年2月27日～3月2日
参考QRコード: 2年間のプロジェクト成果をまとめたカタログ

Nedan Foundationを初めて訪れたのは、もう10年以上前のことです。代表のディガンバはアッサム人として初めてムンバイの社会福祉学科の修士を取得して、長年、州政府や連邦政府に自治権を求めて戦ってきた故郷のボドランドで人身取引のサバイバーへの支援を始めていました。人身取引で性被害に遭う女性は低年齢化しており、救出された段階で8歳～12歳という年齢であることが珍しくありません。宗像助成金を通じて、そうした子どもへの教育支援と心のケアを行っています。今回も、シェルター訪問で少女たちと会うことが出来ました。YouTube「むなかたチャンネル」にある、パキスタンのお菓子や屋台料理を見て、盛り上がりました。

今回の訪問では、政府との和平合意後に初めてとなるボドランドの国際フェスティバルにも来賓として招かれて、「子どもの人権擁護:LGBTの視点から」というテーマで発表をしました。アッサム州の教育省長官も招かれたシンポジウムでしたが、プレゼン内容が非常に好評でした。和平合意と今後の政府支援によるボドランドの発展が明確になったことを受けて、宗像助成金による2つの事業の支援は、2022年度をもって終了します。

ボドランド国際フェスティバルのスタッフと出迎えの空港にて　2023年2月撮影

宗像助成金卒業
バングラディッシュ

プロジェクト:ロヒンギャ難民のホストコミュニティ支援

活動地:バングラディッシュ・コックスバザール
活動実施団体: IC Net
支援開始:2019年～2023年

ミャンマーから地元の人口を遥かに超える人数のロヒンギャ難民を受け入れ、土地を失い、物価の上昇と物資の不足に苦しむコミュニティへの経済的な自立支援が行われました。実施団体であるIC Netは日本の国際協力コンサルタント会社として、何度も現地を訪問し、クラウドファンディングを活用して、地元の女性の経済的な自立を支援し続けています。

クラウドファンディングと宗像助成金を合わせて実施された「ヤギ銀行」では、配布された25頭のヤギから38頭が生まれ、26頭が他の女性の受益者に渡されました。生まれたヤギはメスの場合は他の女性へ譲渡、オスであると販売できるため、その販売益で子どもの教育資金を出したり、土地を購入したり、子どもの小規模なビジネスを支援したり、と生活を豊かにすることが出来ました。また地元のNGOと協働でのジェンダー研修も行われました。

IC NetではJICA(国際協力機構)からの草の根事業の助成金も得ており、コロナ禍が収束した2022年からコミュニティの中で積極的に活動を行っています。他助成金の支援もあることから、宗像助成金の支援は単年度で卒業することが出来ました。

ヤギ銀行の女性グループメンバー（写真提供：IC Net）

宗像助成金支援事業
パキスタン

2022年のパキスタンは8月の大規模な洪水被害に始まり、急激な物価上昇、通貨の暴落、現政権をめぐるデモ活動など、天災と人災に見舞われる年となりました。一方で、2018年に施行されたトランスジェンダー保護法の実現に向けて、人権問題では進展がありました。

解放病棟による薬物リハビリセンターの運営
団体名：Roshan Rasta

解放病棟による長期のリハビリが継続されています。またリハビリセンターを卒業し、依存症から抜け出して5周年、10周年といったタイミングの同窓会も行われました。周年イベントは依存症の再発を防ぐ上で、効果を発揮しています。精神科医の主導により、宗像助成金の支援で、地元の団体と協働する、新たな家族ケアの事業も始まりました。

トランス女性への啓発活動と暴力防止プロジェクト
団体名：Kawaja Sira Society

代表のムーンがトランスジェンダーへの暴力事件を扱うパンジャブ州人権委員会の委員に任命され、トランス女性への性暴力について様々なメディアでの発信がなされました。コミュニティー内でのHIV予防啓発活動、性暴力の通報、警察への研修、司法との連携など、当事者団体としてアドボカシー分野で大きな成果をあげています。

パキスタン洪水被害緊急支援
団体名：Go Green Welfare Society

8月の洪水災害直後から、パンジャブ州で広く環境問題やトランス女性の職業訓練に取り組むパートナー団体が、氾濫したインダス川流域への支援を開始しました。宗像財団でもSNSによる支援を募り、集まった募金で水や食料の提供を行いました。また洪水被害によって家屋を失い、家族を失った被災者それぞれへの、4万ルピーの支給を支援しました。NGOらしい、迅速で確実に被災者に届く支援でした。

2022年度
理事会・評議会

2022年度の理事会と評議会の開催実績は以下の通りです。理事の任期1期2年、評議員の任期1期4年が全て今年度で終了したため、2023年度には役員の改選と再任が行われます。

第8回定時理事会　　2022年7月15日　武蔵大学にて開催

- 2021年度事業報告の承認
- 2021年度事業報告の付属明細書の承認
- 2021年度財務諸表の承認
- 2022年度事業計画の承認
- 2022年度収支予算の承認
- 出張規定の見直し

第6回定時評議会　　2022年7月30日　オンライン開催

- 2021年度事業報告の承認
- 2021年度事業報告の付属明細書の承認
- 2021年度財務諸表の承認
- 2022年度事業計画の承認
- 2022年度収支予算の承認
- 出張規定改定案の共有

第9回定時理事会　　2023年1月6日　市民プラザあくろすにて開催

- 新規HP案の共有
- CHRRへの継続支援の承認
- Munakata Seed Grant開始の承認
- 評議員と理事の任期について

2022年度
会計報告

一般財団法人宗像協会

正味財産増減計算書

2023年7月1日から2023年6月30日

（単位：円）

科目	当年度（2022年7月1日から2023年6月30日まで）	前年度（2021年7月1日から2022年6月30日まで）	増減
Ⅰ 一般正味財産増減の部			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 寄付金収入	9,761,409	9,161,621	599,788
指定正味財産からの振替額	9,761,409	9,161,621	599,788
経常収益計	9,761,409	9,161,621	599,788
(2) 経常費用			
① 事業費	9,541,042	8,823,298	717,744
給与		-	-
法定福利費		-	-
役員日当	110,000	100,000	10,000
プロジェクト実施費	7,047,403	6,793,142	254,261
業務委託費（外注費）	1,536,030	1,384,269	151,761
交際費	27,332	-	27,332
消耗品費	16,724	4,433	12,291
印刷費	11,603	-	11,603
公告宣伝費	-	122,289	△ 122,289
旅費交通費	575,938	307,285	268,653
会議費	16,400	14,622	1,778
研修費	18,030	-	18,030
通信費	181,582	97,258	84,324
その他	-	-	#VALUE!
② 管理費	220,367	338,323	△ 117,956
賃貸料		-	-
消耗品費		-	-
均等割（住民税・都民税）	70,000	70,000	-
旅費交通費		-	-
印刷費		-	-
諸会費（ゴールドカード）	-	11,000	△ 11,000
保険料		-	0
外注費（監査報酬）	110,000	220,000	△ 110,000
通信費		-	-
支払手数料	40,367	39,832	535
為替差損益		-2,509	2,509
その他		-	0
経常費用計	9,761,409	9,161,621	599,788
当期経常増減額		-	-
2 経常外増減の部			
(1) 経常外収益		-	
経常外収益計		-	-
(2) 経常外費用		-	
経常外費用計		-	-
当期経常外増減額		-	-
当期一般正味財産増減額		-	-
一般正味財産期首残高		-	-
一般正味財産期末残高		-	-
Ⅱ 指定正味財産増減の部			
受取寄付金	852,509	192,467	660,042
特定資産受取利息増減額	996	1,121	△ 125
特定資産為替損益増減額		-	-
一般正味財産への振替額	△ 9,761,409	△ 9,161,621	△ 599,788
当期指定正味財産増加額	△ 8,907,904	△ 8,968,033	60,129
指定正味財産期首残高	104,447,068	113,415,101	△ 8,968,033
指定正味財産期末残高	95,539,164	104,447,068	△ 8,907,904
Ⅲ 正味財産期末残高	95,539,164	104,447,068	△ 8,907,904

宗像財団役員

2023年度の役員紹介となります。評議員を務めていた社団法人GEMSTONE代表の深町英樹さんを新たに理事として迎え、6期目となる宗像財団をさらに力強く前進させていきます。

田中真奈
代表理事兼事務局長
海外コンサルタント

深町英樹
理事
社団法人GEMSTONE代表

田中和子
理事
元国際基督教大学教授
専門:ジェンダー

松浦由佳子
評議員
難民支援団体職員
専門:平和構築

穂満将徳
評議員
システムエンジニア

田中誠
評議員
日本聖公会司祭

長谷川攝
ファンドレイジング顧問
日本フィランソロピック財団
理事

納野知広
監事
仙川共同会計事務所

ご寄付

宗像財団では活動へのご寄付をHPを通じて受け付けております。下記のQRコードより、クレジットカード払いが可能です。毎月定額を寄付する「サブスク」の選択肢もございます。ゆうちょ銀行の振り込みをご希望の場合は、下記の振替口座までお願い致します。

ゆうちょ銀行振替口座
記号番号:00150−3−635582
支店番号:(当座)019店
口座名(漢字):一般財団法人宗像協会
口座名(カナ):ザイ)ムナカタキョウカイ

他の銀行から振り込まれる場合
銀行名:ゆうちょ銀行
預金種目:当座預金
記号番号:635582
支店番号:〇一九店(全て漢数字にて入力)

お問合せ

一般財団法人宗像協会(法人番号:0124−05−004289)
〒182-0022
東京都調布市国領町1−25−20−509
e-mail: info@mnkt.org

ホームページにもお問合せフォームがございます。
www.mnkt.ch

関連QRコード

ホームページ

YouTubeむなかたチャンネル